



2025 年
復活祭号

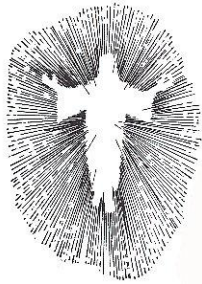


発行所
カトリック高幡教会
あゆみ編集委員会
TEL042(592)2463

延長戦突入

助任司祭
アシジのフランシスコ 熊坂直樹

主のご復活、おめでとうござい
す！
この言葉は、今年はずれの挨拶に
もなるはずでしたが、思いがけない
成り行きで高幡教会に留まること
になりました。あるとは思っていな
かったこの延長戦は、何事もなく二
年に移行するよりも、貴重な時間と



して私は受け止めていきますし、皆
さんにとってもそうであればと願う
ころです。

今回、一度発表された人事が覆る
という珍しい出来事を目の当たりに
して、皆さんも司祭が減少している
現状を実感したことでしよう。他の
教区ではすでにそうなっているよう
に、教会に司祭が常駐しないことは、
今後、東京教区でも当たり前の現実
になっていきます。遠からず訪れる
だろうその日に、私たちは今から備
えなければなりません。

では常駐の司祭なしで信仰共同体
が存続するためには、何が必要でし
ようか。教会委員会を中心とした組
織の運営、建物や各種台帳の維持管
理、健全な財務状況の維持とその記
録などは、滞りなく行われなければ
なりません。その上で、典礼を共に喜
び祝い、未来を支える人を育て、子
どもたちに福音の喜び・信仰の遺産を
受け渡し、新しく教会の門をたく
人々を招き入れることができなくな
れば、その共同体は、やがて歴史の
中で役目を終えることとなります。

その信仰の営みを続けていくため
に、あれこれ多くの手を打つ必要も
あるでしょうが、何よりもまず必要
なのは「基本に立ち返ること」だろ
うと、私は考えています。待降節の黙
想会で「教会とは何か」について話し
、四旬節の黙想会で「改めて、ミサにつ
いて知ろう」と呼び掛けたのは、そう
した考えに基づいています。「キリス
トに呼び集められた新しい神の民で
ある教会」という自己認識のもと、私
たちの営みが「あらゆる教会活動の
頂点にして源泉であるミサ」から流
れ出し、そこに向かっていくように
なるとき、私たちはいつも神との相
応しい関係に立ち返り、信仰共同体
としての生き生きとした命を神から
受けることになるはずで

思いがけず与えられた延長戦です
から、新たな戦術を多く試すことは
あまり考えていません。むしろ、いつ
も高幡教会に集う私たちの日々の姿
と教会のあるべき姿を照らし合わせ
ること、また、ミサを共に心を込めて
祝うことをとおして多様性の中に一
致を見出すこと、これら教会の生命
線である基本を大切にすることを、
この一年のテーマに致したく思いま
す。神の恵みに生かされた信仰共同
体として、福音の喜びのうちに共に
歩み、共に成長してまいりましょう。

教会委員会だより

教会委員会 委員長

今回は主に、二〇二五年一月から三月までの教会委員会だよりを記載します。

今年度も継続して、八王子教会と兼務で、高木賢一主任司祭、熊坂直樹助任司祭に、私達高幡教会の司牧をしていただけることになりました。熊坂神父様は、一旦、二月三日付で佐原教会・成田教会への異動の報があったのですが、三月七日にそれが取り消され、高幡教会での任を続けていただけることになりました。もう一年間、熊坂神父様に司牧していただく恵みに、心から感謝いたします(なお、佐原教会・成田教会へは、四月一日付で、教区事務局長と兼任で、小教区管理者が就任された旨の発表がありました)。

●信者総会

二月二日に、定例の信者総会を行いました。議事全てをご承認いただきましたこと、感謝いたします。

総会では、

- ・司祭直轄での冠婚葬祭係の設置
- ・地区の課題検討のための特命委員の設置
- ・広報を総務の下で活動グループ化

といった組織上の変更について、ご承認をいただきました。また、会計の側面では、ここ数年間、右肩下がりを持っていました。月定献金、建物維持積立金、ミサ献金が、昨年度決算で上昇に転じたことが報告されました。皆様のご協力に感謝しますととも、一層のお力添えをよろしくお願いいたします。

●二〇二五年姉妹教会交流会礼拝

別途、記事を掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

●共同回心式

三月九日四旬節第一主日に共同回心式が行われました。上智大学で教鞭を執られている角田佑一神父様(イエズス会)、熊坂神父様より、赦しの秘跡をいただきました。

●黙想会

三月三〇日四旬節第四主日に黙想会が行われました。熊坂神父様より「改めて、ミサについて知ろう」という内容で、ミサの構造と意味についてのご説明がありました。ミサが教会の中心であり、頂点であり、全ての源泉であることを、改めて強く認識する機会になりました。ご指導に感謝申し上げます。

●復活の主日

四月二〇日復活の主日は、ミサ後にパーティーを行います。よい交流の機会にできたら、と思っております。ぜひ、ご参加をお願いいたします。

四旬節第四主日黙想会 (三月三十日)

改めて、

ミサについて知ろう

教会委員会、総務

四旬節第四主日の三月三十日に熊坂神父様の指導にて黙想会が行われました。

「改めて、ミサについて知ろう」のテーマで熊坂神父様が作成された黙想会資料を用いて十時主日ミサ後に行われた講和では、始めに黙想会の趣旨を説明されました。「今日の黙想会では、ミサの構造を知ることを通して、ミサ全体と各部分で何が行われているかを学びます。それは神の神秘と教会の出会いの場であるミサについての学びなので、単に知識を得ることよりも、日頃のミサの経験と照らし合わせながら、経験的に知るように務めるようにしてください」と説明され、「内容は『典礼憲章』と『ミサ典礼書の総則』をベースにしたもので、教会活動の頂点にして源泉であるミサを、私たちが相応しく祝うようになることを祈念しつつ」と話されました。

続いて、『感謝の祭儀の構造』について説明がありました。「感謝の祭儀に集まった一同は、まず清められ(開祭)、みことばに照らされ(ことばの典礼)、キリストの御体と御血によって一致し

（感謝の典礼）、それぞれの場へと派遣されます（閉祭）」と説明され、続いて、各部分の説明がありました。「閉祭では、集まった会衆は、感謝の祭儀を祝う準備をし、心を整えます。一同は開祭を通して清められます」に続いて「ことばの典礼の中心は『朗読台』であり、そこから鳴り響く『ことば』のうちにキリストが現存します。よって、朗読者・詩篇唱者は、自分の体を通して丁寧なことばを届けるように心がけ、聞く側は、手元の文字にはなく、空間に鳴り響くことばに心を向けます」とし、「ことばの典礼の主要な部分は、朗読および朗読の間にある答唱詩篇であり、説教、信仰宣言、共同祈願は、主要な部分を展開し、結びます。ことばの典礼において、一同は神のみことばによって照らされます」と話されました。



皆さんミサについて熱心に学んでいます

お昼の休憩時間を挟んで続けて午後部が行われました。午後の部では、「感謝の典礼の構造」と「閉祭の構造」についての講和がありました。「キリストの御体と御血の食卓である『感謝の典礼』の中心は、祭壇です。まず、供え物を準備し、奉献文（エウカリスティアの祈り）がささげられます。奉献文とは『感謝』の意で、これが『感謝の祭儀』という名前の由来です。奉献文の最後に唱えられる栄唱に続いて、会衆は『アーメン』と応唱しますが、これは奉献文全体に対する同意を示す非常に重要なものですから、心を込めて唱えてください」に続いて、「交わりの儀で、一同は現に捧げられたキリストのいけにえに与ります。同じキリストの御体と御血にともに与る一同は聖霊の働きのより一つにされます」と説明されました。「閉祭の構造」では「キリストの御体を拝領して一つになった会衆は派遣の祝福を受けて、それぞれの生活の場へと派遣されます」と話されました。黙想会の最後は、まことの司祭キリストが最後の晩餐の席で御父に捧げた祈りによって締めくくりました。「すべてのものを一つにしてください。父よ、あなたが私のうちにあり、私があるのうちにあなたのように、彼らも私たちのうちにあなたのようにしてください。あなたが私をお遣わしになったことを、世が信じるようになるために」（ヨハネ 17:21）

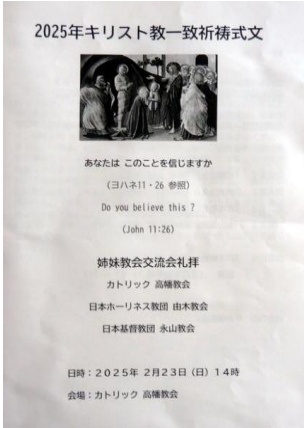
教会学校の遠足

教会委員会 育成委員

三月二十日、久しぶりの開催となる教会学校の遠足に昭和記念公園に行ってみました。前日に季節はずれの雪が降り心配でしたが、当日は春うららかな天気、原っぱや遊具で楽しく過ごすことができました。お祈りと聖歌が始まり、皆で楽しめるゲームやサッカー、長縄などをして過ごしました。可愛らしい幼児の参加もあり、教会学校のお姉さんやリーダーに優しく付き添われながら、



青空の下、教会学校生徒 5 人、幼児 3 人が一日楽しみました



交流会の祈禱式文

姉妹教会交流会礼拝報告

教会委員会 渉外委員



思い思いに過ごしていましたが、花冷えする日ではありましたが、青空の下、皆で過ごし食事を共にすることで親睦を深めることができましたと思います。これからも信仰を分かち合い、共に祈り、一人ひとりを大切にする教会学校を目指し、親交を深めていきたいと思えます。



二月二十三日午後から姉妹教会交流会礼拝が高幡教会を会場に対面で行われました。参加者は約七十名(由木十四、永山十八、高幡三十五、その他四)でした。この集いは三十年以上続いていますが、始まりは「教会」を探していた日系ペルーの方でした。彼らは最初由木教会を訪ねたのですが、カトリック信者であったので小枝功先生が高幡教会にお連れくださいました。当時メルセス会にスペイン語を話すシスターがいられたことが交わりのきっかけとなりました。この知らずにも撒かれた種が今も美しい花を咲かせているのはとても不思議です。小枝先生は当時の

ルイ神父様との出会いを温かな思い出として語っておられ、お二人の友情が姉妹教会交流の大きな力になったのだと思います。

今年のテーマは「あなたは、このことを信じますか(ヨハネ11:26)」でした。ニケア公会議から一七〇〇年目にあたり、礼拝の中心にはニケア信条が据えられました。最初のろうそくに灯された火を「キリストの光」と言いながら順に皆に分けていき、その光を手をニケア・コンスタンチノープル信条を唱え、プロテスタントもカトリックも、私たちが同じ信仰を生きていることを改めて実感しました。礼拝の後は茶菓子を囲んで親しい歓談の時間を過ごし、谷島さんのオルガン演奏を楽しみました。小枝功先生、小枝黎子先生、小手川先生、熊坂直樹神父様、関係の皆様にお世話になりましたことを感謝いたします。私たちの交わりがこれからも新しい何かを生み出しながら続いていくことを願っております。

